

2024 年 12 月 1 日（日）第二礼拝「イエス様を呼んでください」マルコ 10 章 46～52 節

イエス様の名前には、癒しと力があります。イエス様の名前を呼ぶことは、救いです。

第一番目、イエス様のあわれみを求めることです。「…バルテマイという盲人の物ごいが…『ダビデの子イエスさま。私をあわれんでください』と叫び始めた。…彼を黙らせようと、大ぜいでたしなめたが、彼はますます、『ダビデの子よ。私をあわれんでください』と叫び立てた。」（マルコ 10：46～48）私たちが主のあわれみを求めることを、主は願っておられます。「あわれみ」はヘブライ語でラハムと言い、母親の子宮を意味します。母親は子宮で胎児を包みます。たとえ、その子が弱さや病いの状態にあってもです。また、子どもの弱さや問題に対して、母親は自分に責任を感じます。これが、あわれみです。「…主はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。…」（イザヤ 30：18）神様は、私たちにあわれみをかけようと立っておられ、待っておられます。それは、放蕩息子が悔い改めて帰るのを待っている父親のようです。父親は息子を恵もうと、あわれもうと待っているのです。ですから、このあわれみ深い主に立ち返り、主を待ち望む者は幸いです。バルテマイが、周りの人から黙るように言われても、イエス様のあわれみを求めたように、私たちもイエス様を呼ぶことが大切です。

第二番目、良い羊飼いは、羊のためにいのちを捨てます。本当の羊飼いは、狼と戦った時に受けた傷を持っていますが、偽の羊飼いは、狼が来ると羊を置いて逃げるので、傷がありません。イエス様は、私たちの救いのために傷を受けてくださいました。その手足を釘で打たれ、頭にいばらの冠をかぶらされ、背中にはムチを打たれ、脇は槍で刺されて、血と水が流れました。私たちがイエス様を呼ぶ時、傷だらけのイエス様が、ほふられた小羊が、私たちが深く愛してくださっていることを示してくださいます。「この方以外には、だれによっても救いはありません。…」（使徒の働き 4：12）また、イエス様の流された血は、アベルの血よりもすぐれたことを語るそそぎかけの血であり、私たちの全ての罪を贖ったことを叫びます（ヘブル 12：24）。イエス様の血は私たちのいのちであり、よみがえりであり、義です。

第三番目、愛することは覚えることです。イエス様が良くしてくださったことを何一つ忘れないことが大切です。イエス様を心の中で呼び、声に出して呼び、異言の祈りで呼び、常にイエス様を覚えましょう。料理をする時にも、運転をする時にも、仕事をする時にも、勉強をする時にも、イエス様を呼びましょう。家庭の中でイエス様を呼ぶ時、イエス様が家庭を救ってくださいます。癒しを必要とする人たちのために、また、礼拝に招きたい人たちのためにも、私たちがイエス様と共に祈る時、イエス様が「あの人を呼んで来なさい。」と言ってくださいます。盲人バルテマイがイエス様を呼び続けた時、イエス様は彼をお呼びになりました。イエス様のもとに行くのを邪魔していた人たちは一変して、バルテマイに「心配しなくてよい。…あなたをお呼びになっている」と言い、彼はイエス様から癒しを受け取りました。このようにイエス様を呼ぶ時、状況が一変し、問題が解決されるのです。アーメン！